

## 2025（令和7）年度 学校経営計画

### 1 めざす学校像

<p><b>教育目標</b></p> <p>憲法及び教育基本法に則り、学園がこれまで築き上げてきた「人間尊重」の歴史に学び、現代社会を強く生き抜く人間を育てる為、教育目標を次のように定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 民主的な社会の形成者として必要な基礎学力を培う。</li> <li>2) 仲間とのふれあいの中から、明るく豊かな心と創造性を養い、主体性と個性豊かな人間を育てる。</li> <li>3) 生きる強さと人間的優しさを備えた心身共に健康な人間を育てる。</li> <li>4) 他国の文化や生き方に学び、広い視野に立って地球環境と平和を守るために世界の人々と協力できる人間を育てる。</li> </ol>
--

### 2 教育目標を実現するために(中期的目標)

<p>1 教育内容の充実 地域に信頼され誇りとされる学校を目指すために、基本的な教育内容の徹底及び教職員の資質向上し教育内容を充実させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生徒指導の充実：将来の自立に向け、基本的な生活習慣の確立、マナー意識、規範意識を育む。また、誰にでも挨拶ができ、男女や年齢に関係なくコミュニケーションがとれる生徒を育成する。</li> <li>2) 学習指導の充実：新学習指導要領に基づく新カリキュラムについて、各教科・教務が中心となり、教学内容のさらなる充実を図るための検討を行う。探究学習についての研究を進め、学年やコース単位での取り組み、プロジェクト学習の拡充を図る。</li> <li>3) 進路指導の充実：中堅進学校として大学進学実績の向上をめざす。4年制大学への進学率を75%以上に。国公立大学や難関私立大学、中堅私立大学への合格実績をあげる。そのために、目標達成に向けて努力する態度を養い、志望校合格に向け最後まで挑戦する姿勢・意欲を生み出しサポートする。大学共通テストについての情報を収集し、生徒に適切な指導ができるよう分析をする。大学進学等に繋げるためにも、探究学習等の総合選抜型受験での活用の研究や、英検やTOEIC、NEWS時事能力検定受験に積極的に取り組む。実力テストの事前・事後指導と分析をしっかりと行う。</li> <li>4) 行事の充実：体育祭の外部室内施設での実施を継続する。また、生徒自らが意欲的に取り組む行事の拡充や外部団体とのコラボ企画の研究を進める。</li> <li>5) 情操教育の充実：関西万博見学、文化行事や講演会を企画し、情操教育の充実を図る。</li> <li>6) 教職員の資質向上：挨拶やコミュニケーション能力を高める。教科での授業力の強化に向けて各種研修会等への参加を啓発する。</li> <li>7) 主権者教育・消費者教育・金融教育の充実</li> </ol>
<p>2 グローバル人材の育成 今後さらに加速するグローバル社会の中で活躍できる人材育成の為に施策を充実させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語資格試験取得の促進：オンライン英会話の活用、検定対策講座、TOEICやIELTS等各種検定の研究と精査を行い拡充させる。</li> <li>2) 海外での活動プログラムの拡充：高校海外修学旅行の実施と新方面の開拓、短期留学プログラム・交換留学など中・長期留学プログラムの拡充を行う。</li> <li>3) ダイバーシティ理解教育の拡充：ダイバーシティを理解し、その中で活躍していける人材を育成する。</li> <li>4) 国内・校内を含めたグローバル体験プログラムの拡充：海外生徒との交流機会を増やし、国内プログラムの情報提供と参加を奨励する。</li> <li>5) 海外大学進学者を増やす取組の拡充：生徒保護者への海外進学的重要性の認識を高め、台湾・マレーシアを軸に海外進学拡充に向けた施策を行う。</li> </ol>
<p>3 DX戦略の推進 生徒の授業面、そして学園の校務全体について、総合的なDX戦略を策定しICT化の推進を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教学関連：個人向けモバイルの活用として、学力、探究心向上に向けた効果的な使用法を研究する。また、生徒・保護者・教職員の連携ツールとしての活用の拡充を進める。プログラミング教育の取り組みの拡充を行う。学園DX戦略の策定し、より快適にICTを活用できる環境整備を行う。昨年度導入した保護者ポータルサイトを最大限活用できるように研究をすすめる。</li> <li>2) 行事関連：オンライン授業、行事の動画配信や記録、各教室への情報発信・共有方法の研究と拡充を行う。</li> <li>3) 職務関連：教職員の業務を効率化し各部署・部門間の連携の強化に取り組む。会議での活用なども含めて業務の軽減化により学力アップに繋げる。</li> <li>4) 施設関連：教室、生徒、教職員の環境等の保守と整備を行う。今後の学園DX戦略の策定し、より快適にICTを活用できる環境整備を行う。</li> <li>5) 学園としてのトータルデザインの策定：生徒・保護者・教職員が連携し活用できるシステムの構築と施設のトータルデザインと保守整備計画の策定を行う。</li> </ol>
<p>4 環境の整備 地域、生徒、保護者、教職員など誰からも信頼される魅力ある学園を支えるハード、ソフト両面での環境整備計画を策定し実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育環境整備：生徒保護者のニーズに合った教育環境整備に取り組む。いじめのない学校づくりの推進を目指し、「いじめ対策基本方針」に沿って生徒にはアンケート実施や中学生には通報システムを導入して早期発見に努める。部活動の活性化を図る。校則の検討と見直し、放課後学習サポートの拡充を図る。</li> <li>2) 施設環境整備：施設補修・新規工事の年次計画を策定する。テニスコートの人工芝化の工事計画の策定と自転車置き場の屋根設置の検討を行う。老朽化しているトイレの改善や空調設備の更新、教室のLED化などについて優先順位をつけて取り組む。</li> <li>3) 生徒のメンタルケア：生徒相談室・カウンセリングの拡充、生徒の居場所づくりの推進、傾聴などの対応において教職員の資質向上に向けて取り組む。</li> <li>4) 学校評価制度の拡充：生徒保護者、教職員対象のアンケート方法と実施後の評価についての検証と拡充を図る。</li> <li>5) 災害時の対応の徹底と災害時用品備蓄の拡充：法人本部と連携しながら、災害対策マニュアルの沿った教職員の対応を確認し、生徒の対応についても周知徹底を図る。学園に必要な災害時用品の備蓄を引き続き進める。</li> </ol>
<p>5 経営基盤の確立 持続的・継続的に安定した学校運営を行う為に、健全な財務状況の確立を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人事管理：教職員の採用・人事配置・定数管理・人件費率等、適正に管理する。</li> <li>2) 財務運営：適正な予算執行を行い健全な財務運営を行う。経費節減、人件費率の抑制に努め、施設整備計画を策定する。</li> <li>3) 生徒募集：計画的に募集生徒数を決定し、募集活動の拡充と目標入学生徒数(次年度は中学75名、高校420名)を獲得する。学園の魅力作りに取り組む。</li> <li>4) 組織運営：法人内での中・高・大の連携を強化し、属人化から脱却に向けた組織づくりを行う。規程などの整備、見直しにも取り組む。</li> <li>5) 計画・施策の実行力を向上させる：学園の取り組むべき最重要課題を歳差しながら、経営計画を着実に実行する。</li> </ol>
<p>6 労働環境の整備 共学の質を落とすことなくより健全な労働環境を追求し整備する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健全な労働環境の整備：「働き方改革」に沿って教職員が安全・快適に勤務できるようにより良い労働条件を追求する。教育の質を担保しながら、教職員が働きやすい環境整備、労働条件についての検討を進める。有給休暇取得率の上昇、労働安全衛生委員会からの意見の吸い上げと改善、DXの有効活用の推進、労使双方の代表による労働条件の協議の推進、会議の回数・時間の削減、長時間労働を良しとしない職場風土作り等に取り組む。</li> </ol>
<p>7 その他</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) SDGsの取り組み：教職員、生徒への周知と取組みを進める。重点取り組み項目を策定し、身近な所から取り組む。</li> </ol>

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [2025年12月実施]	学校協議会からの意見 (実施：2026年2月)
<p>今年度も教職員の協力のもと、学校運営を円滑に行えたことに、まずは心より感謝したい。100周年記念事業の施設整備計画として、これまで取り組めていなかったテニスコートの人工芝(オムニコート)化の工事に着手し、生徒の皆さんには不便をかけたが無事に竣工することができた。また、大阪・関西万博の見学、中高合同体育祭の外部体育館での開催、高校の海外修学旅行についても、いずれも無事に実施することができた。探究学習については、昨年度の取り組みに加えて、コースでの取り組みの強化、高石市との包括連携協定に沿った活動の展開、さらに学園祭や体育祭においても、生徒たちの意見を反映した企画等を実施することができ、内容を拡充することができた。今後は、探求学習を進路にも繋げられるよう、さらなる深化を図りたい。学校評価については、内部・外部ともに、教育全般に関する評価が引き続き高かったことは喜ばしいことである。特に、一般的に外部評価が昨年度に比べてやや向上した点は評価したい。一方で、学園と生徒・保護者との連携については、外部評価が低い点を重く受け止め、検証を行い改善していきたい。国際理解については高い評価を維持することができた。学習指導、進路指導について、一定の評価を得られているものの、授業力の向上や進路情報の提供については、生徒・保護者のニーズに十分応えられるよう、研修等の一層の強化が必要である。生徒指導については、昨年度に引き続き、外部評価は高く概ね良好と考えられるが、厳しい内部評価に表れている課題について引き続き検討を行い、改善に取り組んでいく。学校行事については、引き続き高い評価を受けることができた。今後も、生徒の成長を加速させる質の高い教育の提供に向けて、教職員が一丸となり組織的に持続可能な取り組みを構築していきたい。</p>	<p>受験生が増加していることは、これまでの努力の積み重ねによる成果である。共学化により、生徒の身だしなみも良好になっている。今後は中学生の募集を拡大しながら、中高大連携をさらに推進してほしい。読書週間などを通じて、本に親しむ機会を一層拡充することを望む。公立校とは異なり、私学においては情操教育を充実させることで差別化を図ることが重要であり、自分が何をしたいのかを学び、将来の夢を描ける体験の機会をさらに充実させてほしい。主体性を尊重する取組は大切である一方、発達障害など配慮を要する課題もあるため、丁寧なコミュニケーションが可能な環境を整え、生徒に安心感を与えられる体制づくりを求めたい。大阪府で実施されている私学の授業料無償化については、授業料の上限設定により私学の特色を打ち出しにくい状況にあるのではとの意見が出された。物価や人件費の上昇により、生徒の教育環境の悪化につながるのではないかと懸念も示された。また、無償化の影響は私学に限らず、公立中高を含む公教育全体に、必ずしも良い影響ばかりではないとの指摘があった。生徒数が増加傾向にある中で、教員や教室数の確保を含め、教育環境の維持に対する懸念が示された。学校から各学年やクラス担任の携帯電話から連絡が入ることがあるが、登録のない電話番号には対応できない場合があるため、電話番号の周知を徹底してほしいとの要望があった。学園全体での挨拶指導は、コミュニケーションのきっかけとして評価できる。進路指導室については、スペースを含めた拡充を求める意見があった。地域住民を手助けする生徒が見られ、そのような生徒を育てている学園は素晴らしいとの意見があった。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な重点取組計画・内容	評価指標	自己評価
I 授業内容の充実	より魅力ある学校を目指し、教育内容全般の見直しと実現にむけての準備	① 将来の自立に向けた基本的な生活習慣の確立、マナー意識、規範意識を育む教育の推進、挨拶、コミュニケーション能力向上の取り組み。 ② 新カリキュラムの授業内容の研究。 ③ 基礎学力の定着から論理的に物事を考え判断する力を育む指導の充実。探究学習を通しての思考力・判断力・応用力の育成。 ④ 生徒の目標達成に向けた丁寧な進路指導の充実。四年制大学進学率を増やし進学実績の向上を目指し、組織的・継続的な対応の拡充 ⑤ 昨年度の外部室内施設での体育祭の修正点の改善と継続的な実施 ⑥ 教員の資質向上に向けて、研究授業の拡充	① 生徒指導部を中心に、生徒の基本的な生活習慣の確立に向けて、詳細なマニュアルの作成を行い、社会の変化に合わせた持続可能な取り組みにしていけることができるか。 ② 新カリキュラムに対して、大学入試を睨んだシラバス作成と授業構築が実行できるか。 ③ 探究学習の取り組みの研究を行い拡充していきけることができるか。 ④ 大学進学率を75%以上にし、国公立大学50名以上、関関同立120名以上の合格者を輩出できるか。 ⑤ 校内での放課後学習サポートの拡充や進路目標に合った課外授業の設定等、指導内容を整え、拡充することができるか。 ⑥ 外部室内施設での体育祭を継続実施し、拡充することができるか。 ⑦ 研究授業見学週間を活用して、教員の資質向上に繋げることができるか。	① 規定の見直しや詳細なマニュアルの作成を継続し取り組むことができた。(○) ② 新カリキュラムに移行して3年の経過をしたので、再度見直しをしてカリキュラムの修正をすることができた。(◎) ③ プロジェクト学習の継続とコースごとに新しい取り組みをスタートすることができ、拡充することができた。(◎) ④ 大学進学率は75.1%となり、昨年に引き続き目標を達成することができた。国公立大合格は29名と目標は達成できなかったが、関関同立合格は122名合格と目標を達成することができた。(△) ⑤ 中学を中心に拡充することができた。(○) ⑥ 継続、発展的に開催することで、生徒保護者の満足度を高められた。(◎) ⑦ 今年度は新たな方式で取り組み一定の成果をあげたが、更なる改善拡充を目指しての検討が必要である。(○)
II グローバル人材の育成	すべての生徒が海外に目を向ける意識を高め異文化に触れ合う機会の確保と理解を深める取り組み	① オンライン英会話の活用の充実 ② 英語資格試験取得の促進 ③ 高校海外修学旅行の実施と新方面の開拓 ④ 国内プログラムや海外留学プログラムの拡充 ⑤ 台湾とマレーシアの大学への進学について、情報提供とアドバイス・進学指導を実施する	① 導入したオンライン英会話授業を拡充することができるか。 ② 英検受験についての対策の拡充を図り、中学生は卒業までに全員英検3級以上合格、高校生は卒業までに半数が準2級を合格することができるか。 ③ 高校修学旅行について、海外のプログラム拡充をして海外修学旅行への参加者を増やせるか。 ④ グローバルプログラムを拡充して、海外大学への進学者10名以上を輩出できるか。	① 拡充することはできているが、更に改善していく必要がある。(○) ② 目標を達成することができなかったため、引き続き取り組みを強化する。(×) ③ 高校修学旅行の海外参加率を上げることはできなかったため、次々年度に向けて新規方面の設定も含めて検討をしていく。(×) ④ 海外大学への関心は高めることができたが、進学者は3名であった。(×)
III DX戦略の推進	学園としてのDX戦略の策定と教室・校舎内の環境整備	① 学力、探究心向上に向けた効果的な使用法の研究 ② オンライン授業についての研究と拡充 ③ 行事の動画配信や記録、情報発信・共有方法の研究 ④ DX戦略による教職員の業務の効率化 ⑤ より良いICT環境の研究と改善 ⑥ 生徒・保護者・教職員が連携して活用できるシステムの拡充 ⑦ 施設のトータルデザインと保守整備	① PCを教学、連絡ツールなど様々な場面で効果的に活用していきけることができるか。 ② 学園のDX戦略の策定・実行を担当する教職員を配置し、校務支援システムの拡充を行うことができるか。 ③ 教職員、生徒、保護者が活用できるICTツールの研究、拡充をすることができるか。 ④ DX戦略にそった施設のトータルデザイン案を策定できるか。	① 一定の効果は得られているが、更なる拡充に向けて検討を強化していく。(△) ② 校務支援システムの導入については順次実行をすることができているが、多方面での拡充に向けて取り組む必要がある。(△) ③ 保護者ポータルはメール配信を中心に有効に活用できているが、保護者からアプリであればさらに良いとの声が寄せられているので検討をしていく。(△) ④ 教科指導など分野別では取り組み始めているが、全体としてのトータルデザイン案の策定はできなかった。(×)
IV 環境の整備	生徒がより快適に過ごせる環境を追求する取り組み	① 地域から信頼させる魅力ある学園づくりの推進 ② 生徒保護者のニーズに合った教育環境整備 ③ いじめのない学校づくりの推進 ④ 部活動の活性化 ⑤ 施設補修・新規工事の年次計画の策定 ⑥ 自転車置き場の屋根の設置工事の実行 ⑦ テニスコートの人工芝化工事の実行 ⑧ 生徒相談室・カウンセリングの拡充 ⑨ 現在実施しているアンケート方法、アンケート実施後の評価制度の検証と見直し	① 生徒への学校生活についてのアンケートを実施し、結果を元に改善点を洗い出し、生徒保護者のニーズに近づけることができるか。 ② 自転車置き場の屋根の設置に向けて計画を策定し、工事に着工することができるか。 ③ テニスコートの人工芝化工事の計画を立て、工事の実行をすることができるか。 ④ 教員の傾聴力アップや生徒相談室・カウンセリングの拡充などを通して、生徒のメンタルケアにしっかり取り組めるか。 ⑤ 保護者対象アンケートの実施方法について検証し、改善を図り、アンケート回収率を増加することができるか。	① アンケートは継続的に実施することができている。課題の克服に繋げていく。(○) ② 継続して検討は行ってきたが、計画の策定には繋げることができなかった。(×) ③ テニスコートの人工芝(オムニコート)化工事に取り組み、竣工することができた。(◎) ④ 研修には取り組むことができ、メンタルケアについては拡充できたが、カウンセリングについての拡充の必要がある。(○) ⑤ 保護者対象アンケートの回収率を上げることはできなかったため、周知方法や期間などの見直しを行う。(△)
V 経営基盤の確立	人事の活性化と教員の定数管理・労使の連携・適性な予算執行	① 教職員の採用・人事配置・定数管理・人件費率等の適正な管理 ② 適正な予算執行から健全な財務状況の確立 ③ 経費節減 ④ 人件費率の抑制 ⑤ 生徒募集活動の拡充 ⑥ 計画的な募集生徒数の設定と目標入学生徒数の獲得	① 年齢、キャリアなどのバランスが取れるような人事採用ができるか。 ② 計画通り予算執行できるか。 ③ 教学に必要な経費を見直し、節減を推進し、紙の節約や備品の丁寧な使用・管理を行い、経費の削減をすることができるか。 ④ 人件費率が62%以内に収められるか。 ⑤ 在校生の生徒募集広報チーム「VIVA 羽衣」の生徒数を30名以上に増加させられるか。 ⑥ 目標入学生徒数の中学75名、高校420名の入学生を獲得できるか。	① 適正な人事採用を行うことができた。(○) ② 予備費を使うものもあったが、概ね計画通りの予算執行をすることができた。(○) ③ 節減の啓発や取り組みを行ったが、まだまだ削減できる部分があるので継続して取り組んでいく。(△) ④ 人件費率は最終的には、およそ57%となったが補正予算では厳しい状況であったため、次年度以降は検討が必要である。(◎) ⑤ 参加人数を29名と増やすことはできたが、目標は達成できなかった。(△) ⑥ 入学者数は、中学100名、高校596名となり、中学高校共に達成することができた。厳しい状況の中、教職員が協力して取り組んだ成果と考える。(◎)
VI 労働環境整備	働き方改革に沿って、より良い環境整備	① 「働き方改革」に沿って教職員の安全・快適に勤務できるより良い労働条件の追及 ② 研修日検討委員会での労働条件改善協議の継続 ③ 有給休暇取得率の上昇 ④ 会議の回数、時間の削減に向けた取り組みの強化等、長時間労働をよしとしない職場風土作り	① 教育環境の質を落とさないことを前提として、労使双方の代表者が意見交換をしながら労働条件改善に繋げられるか。 ② 有休付与日数10日以上の教職員全員が6日以上の有給休暇を取得でき、有給休暇消化率を上げられるか。 ③ ICTの活用などで仕事量を軽減し、教職員が効率良く力を発揮できる環境整備を行うことができるか。 ④ 教職員の退勤時間を早められるか。	① 改善に繋げるところまでは至らなかったが、土曜休日を増やすなどの修正を行った。(△) ② 有休付与日数10日以上の教職員全員が有給休暇5日以上を取得でき、かつ消化率は70.6%で昨年度(66.7%)より、さらには2024年の全国平均66.9%よりも上げることができた。(◎) ③ 新校務システムの導入・活用やデジタル採点の拡充に取り組み成果を上げた。(◎) ④ 退勤時間は全体的に早められている。(○)
VII その他	その他	① 学園を上げたSDGsの取り組みの強化 ② 高石市と包括連携協定をもとに協働で、地域社会の課題解決の実行	① 重点取り組み項目を策定し、身近な所から取り組みをすすめるか。 ② 高石市と協働して、地域社会課題探究に取り組み、地域の発展と生徒の成長に繋げることができるか。	① 教職員の取り組みの拡充はできたが、生徒への働きかけは進展できなかった。(△) ② 高石市との連携を最大限に生かして、探求学習に取り組み、成果を挙げることができた。(◎)